

「ここには夢がある。笑いがあふれる。面白いがある」。ファーマフーズ(京都市西京区)を訪ねると、エントランスに社員等の寄せ書きがあり、その真ん中にこの言葉がある。

同社が注目しているのは、人々の暮らしの中にある「身近なバイオ」だ。タマゴやお茶など日常食べている食品から「体に良いもの」を見つけたし、リラックス効果のギャバ、歯周病予防のカテキン、ピロリ菌抑制の鶏卵抗体など機能性食品のヒット素材を生み出してきた。他にはあまりないユニークさと有効性を合わせ持つ食品素材は、どのような着想とプロセスを経て商品化されたのだろうか？

身近なものからヒントを得て、事業へ転換するという同氏の発想の原点は、子ども時代に飼っていたニワトリ

との出会いにある。ニワトリはこうして頻繁にタマゴを産むのだからどうしたらタマゴがヒナになるのだろうか？生命の不思議さに目覚め、その疑問を解くために観察と実験を繰り返して、結果を出そう

とした。タマゴからヒナに孵ることを当たり前と考えな

書籍案内

『バイオビジネス「着想の原点」』

(株)ファーマフーズ社長 金武祚著

進展させ、バイオベンチャーとして事業を進めてきた現在も変わることはない。

本書では、「研究を世の中に役立てたい」という思いを胸にバイオビジネスに真っ向から取り組んだ一人の研究者の生き方が綴られている。どんなに大変な状況でも決してあきらめない。ひらめきと人とのつながりを大切に、仲間を信頼して、たゆまぬ努力で切り拓いてきた。決して平坦ではなかった道のりだけれど、そこはかとなく漂うユーモアと常に前向きな考え方に触れ、研究を發展させた人やベンチャーを起業したい人はもちろん、人生に悩みを抱える人も勇気づけられ、歩を進めるヒントを得られる一冊だ。

研究者であり、上場企業の経営者でもある著者独自の経営論、組織論、人材育成術も合わせて説く。

○発行元：商業界(03・3224・7481)

○本体価格・1500円(税別)、四六判、192ページ



前と考えな

は、研究を